

ボーリング柱状図 (孔名 松山観測井 孔2)

(位置) N 33°50'31.89", E 132°44'21.43"

(標高) TP.44.04m (掘進長) 205.20m (掘進方向) 鉛直

標尺 m	標高 m	深度 m	色調	地質	柱状図	コアの観察	岩級区分	コアの地質要素評価					最大コア長 cm	R Q D %	コア採取率 %	口径 ビット	掘削 月 日	孔内 水位 m	孔内 試験	岩石 試験	標尺 m											
								硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質																				
180						泥岩優勢な砂岩泥岩互層 砂岩がラミナ状に入る細互層(縞状) 180.60~180.75m 砂岩挟む。層理 $\angle 55^\circ$ 181.00~181.70m 層理 $\angle 40^\circ$ 181.70m以深、地層の傾斜緩くなる。 $\angle 30^\circ$	CM	B C	III IV	a d	α	2	30	85	100	HTG -WL 97.5 mm	3/13 181.70	-2.73				181										
181					184m付近 層理 $\angle 45^\circ$ 傾斜 184.33~184.38m 細礫岩~中礫岩 上方細粒となる。層理 $\angle 30^\circ$ 185.25~185.40m 鏡肌発達した泥岩(破碎) 185.55m付近 層理 $\angle 50^\circ$ 186.75~186.80m 花崗閃緑岩礫	14							14	100	20							60	100	10	20	100	182					
182																																183
183																																184
184																																185
185																																186
186																																187
187						泥岩優勢な砂岩泥岩互層 砂岩がラミナ状に入る細互層(縞状) 層理 $\angle 30^\circ$ 全体にクラッキー、部分的に幅5~10cm角礫状破 砕を伴う。 鏡肌を伴う割れ目と白色脈伴う割れ目がある。 潜在的な割れ目も多い。																										188
188																																189
189																																190
190	-145.86	189.90																		191												
191			淡灰	礫岩		淘汰不良の礫岩 花崗岩類の礫を主体とする。最大径45cm。 流紋岩礫も含む。														192												
192	-148.31	192.35																		193												
193	-148.61	192.65		泥岩優勢互層		泥岩優勢な砂岩泥岩互層 砂岩がラミナ状に入る細互層(縞状) 192.55m付近 ラミナうねる。 192.65~192.90m間は花崗岩礫 193.05m付近 層理 $\angle 40^\circ$ 194.90m付近 層理 $\angle 25^\circ$														194												
194	-148.86	192.90		花崗岩礫																195												
195			黒灰	泥岩優勢 砂泥互層			195.03													196												
196			淡灰	花 崗 閃 緑 岩		境界面は不明瞭(コア割れており判断できない) 全体としては高角ではない。 195.30~195.50m $\angle 70^\circ$, $\angle 30^\circ$ の割れ目に泥質物 入り込んでいる(幅1mm以下)、割れ目に黄鉄鉱を生 じている。 196.65~197.10m, 197.30~197.65m間コア流失	CM CH	B	III	a	α	2	18	31	100	HTG -WL 97.5 mm	3/17	195.80	-2.90		197											
197			帯 緑 淡 灰				197.80															198										
198	-153.76	197.80																				199										
199			淡灰				硬質で割れ目の少ない花崗閃緑岩 198.15~199.50m 黒雲母が緑泥石化し、緑色を帯 びる。また、長石は変質し桃色を帯びる。 198.80~198.90m 緑色脈+流紋岩? $\angle 35^\circ$ 199.50m以深は変質弱い。 潜在割れ目は $\angle 60\sim 65^\circ$, $\angle 45^\circ$ ±, $\angle 30^\circ$ など。 200.90m~孔底までは極めて割れ目少ない。	CH	B	II	a	α	2	30	95		100	3/19	198.00	-2.43		200										
200							200.90														201											
201	-156.86	200.90																			202											
202																					203											
203						岩石はほぼ新鮮であるが、長石はわずかに白濁、黒 雲母はわずかに金雲母化している。 203.05m $\angle 55^\circ$ の割れ目 傾斜はS12°Wにほぼ直交 する方向→走向はN10°E, 傾斜60°E	B	B	I II	a	α	1 2	43	94	100	3/20	200.10	-2.63		204												
204																					205											
205	-161.16	205.20																			206											
206																					207											
207																					208											
208																					209											
209																					210											
210																					210											

孔2-2-①
198.50
198.70

 孔2-2-②
203.25
203.50
204.12

 204.22
孔2-2-③
NS, EW